



インドにおけるフィールドワークの実践

國弘 暁子 (COE研究員・PD) KUNIHIRO Akiko

インド北西部に位置するグジャラート州、その商業中心地から100kmほど北に移動した村落地域に私のフィールドがある。その地において、ヒジュラ（両性具有としてのイメージが付与される）と称される人々と生活を共にしたフィールドワークに取り組んでいる。地理的には辺鄙な所に位置するが、ヒンドゥー女神パフチャラの巡礼地として有名な寺院があり、国内外から大勢の人々がこの寺を訪れている。

パフチャラ女神寺院をフィールドに選定したのは、寺院を活動拠点とするヒジュラとの出会いを求めたことが理由であった。グジャラート語の辞書には、「ファタダ（ヒジュラを指す民俗名称）は泣くよ、いたるところで」と、一カ所に留まることなくふらふらと移動するヒジュラの様子が表現されている。この表現の通り、ヒジュラの行動は把握することが難しく、インド政府給費留学生としてグジャラートで過ごした三年の間にヒジュラを見る機会は一度もいなかった。友人にもヒジュラについて詳しく知る者は誰一人いなかったが、パフチャラ女神寺院に行けばヒジュラと会うことができると教えられた。そこで女神寺院を訪れてみると、確かに参詣者に対して女神の恩寵を与えるヒジュラが境内にいた。ヒジュラに近づき対話を試みたが、すぐにその場から追い出されてしまった。

それから二年後、フィールドワークに臨む覚悟を決めて、再び女神寺院を訪れた。寺院裏側にあるダラムシャラ〔簡易宿泊施設〕を仮の拠点と決め、そこから寺院への参詣を何度となく繰返し、まずは自分の存在をヒジュラに認識してもらうように努めた。これが功を奏し、ヒジュラは次第に私が傍に居ることを受け入れ始めた。

その一方で、ダラムシャラを管理する老夫妻との関係は悪化の一途をたどった。女神寺院のある街は、聖なる巡礼地であると同時に、性のけ口を求める男性にとっては売春の拠点でもある。その地を一人ですらつく外国人女性は非常に目立つ存在であり、私が宿泊するダラムシャラには何人かの来訪者があつたらしい。管理人の老夫妻は次第に疑心を抱き、私の行動を監視し始めた。

或る日、寺院境内で私がヒジュラと共に女神の恩寵を参詣者に授ける真似ごとをしていると、突如そこに管理人の老男性が現われ、無言のまま目を見開いて、仰天した形相を見せた。その日の夕刻、私の帰りを待ち構えていた老男性は、ヒジュラはセックスに係る仕事をしている悪い奴らだと非難し、私に激しく怒鳴り散らした。その日を最後に街から出て行け

と命じられたのだが、その晩のこと、老人は悪気のない顔をして私に近寄り、私を性的対象と見なす態度をとった。私は臆せず老人を突き倒した。私に対するその老人の態度は、翌日から全くの他人になることを見越したものであった。

悪いイメージをもってヒジュラを見下す人は、この老男性に限らず多数存在する。その理由として、ヒジュラがインドの社会的中核をなす親族（異性愛）の規範から逸脱し、独自のルールに基づく世界に生きる点が上げられるだろう。ヒジュラは男児として生まれながら、女性同様にサリーを身にまとい、ヒンドゥー女神に帰依する現世放棄者として^{こつぎ}乞食によって生きる人々である。逸脱者の烙印を押され、異様な他者として遠ざけられる傾向にあるが、その後のフィールドワークで明らかとなるように、ヒジュラは近隣で暮らす一般の人々と同じ生活空間を共有しており、独自の世界の中だけに閉じ籠って生きているのではない。

先に述べた事情から、フィールドで行き場を失った私は、幸いにも一人のヒジュラの家泊めてもらうことになった。こうして私は、ヒジュラの家を中心とする人間関係の中に組み込まれ、街における新たな情景を目にすることになった。このヒジュラを中心とする人々の繋がり、私が当初ダラムシャラに身を置いていた頃に知り合った人々とは混じり合うことなく、両者の間には微妙な距離があった。この両者間の距離は、地域社会に生きる人々の了解の内では明示的であっても、他所者の目で捉えることは難しい。

女神寺院を中心とした街に生きる人々の間には、互いを他者として位置づける一貫した境界線があり、それが維持される限りにおいて秩序が保たれる。他所者だった私は、その境界線に向こう見ずにも跨ぎ越してしまい、ダラムシャラ老夫妻の管理する秩序を乱してしまったわけだ。

地域社会の中に深く埋め込まれた事象は、身体をもった調査者のフィールドワークによって初めて知覚可能となる場合がある。しかも、それはしばしば人間の感情が噴き出す瞬間に顕在化する。当該社会の人々と共に生きて経験知を体得するフィールドワークの実践は、調査者の忍耐と体力を要求するが、人間の隠れもない剥き出しの姿を目撃する“醍醐味”もある。私はこれからも、自らの身体と感性を随伴者として、非文字データを紡ぎ出す、フィールドワークという作業に従事していく。